

資料4

オホーツクと旅人をつなぐ
 交流拠点『Connecttrip』
 ～来訪者が魅了される地元の産業・自然
 ・ふれあいを活かした旅～

一次産業×観光の新しい形

オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム
 推進協議会（Connecttrip）副会長

合同会社大地のりんご 代表 道山マミ



自己紹介

2011年  大地のりんご 起業

生産地に根差した小回りの利く加工施設の必要性を感じ起業
 製造から販売までの企画コンサルティング事業

(業務内容)

漬物製造業、惣菜製造業、菓子製造業、ソース製造業取得
 商品開発、試作代行、委託製造、農産物、加工品卸業務

2016年 JAS有機加工食品生産工程管理者認定 取得



2011年
 オホーツク・テロワール活動
 有限責任事業組合設立
 ヨーロッパで行われていたAOCの活動
 (産地呼称制度)をモデルに、生産地観光
 (生製品の販売、産地でしか体験できない
 食や体験メニューの提供)による農山漁村の
 付加価値向上をオホーツクで実現することが
 目標!

80軒の生産や、加工業者が集まり
 美幌、北見春光コープさっぽろ店内に
 アンテナショップ開設。手掛ける商品の
 販売場所を作る＝生産力、販売力の向上

清里、美幌、興部、網走などでマルシェ
 を開催＝情報発信



6次産業化
 ～ 地域連携による製造能力の向上△～

①テーマ：規格外品の付加価値向上
 有機農業法人×一次加工業者×販売事業者
 (オホーツク管内連携のスキーム)

課題：産地イメージがない＝味をイメージできない!



目印園「オホーツク産」コーナー
 約50店舗で販売

②テーマ：地域素材の付加価値向上
 市町村 × 首都圏シェフ × 委託製造事業者
 大地のりんごが委託製造工場、
 出荷オペレーション、在庫管理



地域の課題： 一次産業が盛んな地域でありながら、観光産業との結びつきが薄い
地域の暮らしの価値や景観の魅力を、地域に暮らす自分たちが活用できていない



一次産業は盛んな地域だけで観光客が生産者や地域住民と触れ合う場所がある？

既存の観光ルートでは観光施設巡りの他に、田園風景や港など農山漁村の原風景に触れる機会が含まれていない

地域の歴史や文化に触れるような観光コンテンツはあるの？！

網走監獄のイメージが強くそれ以外の歴史事実として、北方民族などの先住民の歴史や、明治時代の近江商人・又十藤野による地域産業の開発など歴史文化と触れる観光メニューが無い

地域の食文化に触れられるような場所は？

市場が衰退し、農産物の市場は網走には存在しない。水産物の市場も一般はHACCEPの関係で立ち入り禁止。鮭の水揚げでは有数の産地でありながら、あら汁や飯寿司など郷土料理などに観光客が気軽に接する場所が少ない。農産物に至っては全国的な産地でありながらそれらの産物も活用し、お土産

個人旅行者やインバウンドの受け入れ窓口って？

道の駅以外に個人旅行者向けの、またはインバウンド向けの荷物一時預かり所などのサービスを提供する窓口が無い
多言語化された地図や案内板

目的地までどうやって行けばいいの？

市街地から離れた港や田園などに向かうことが出来る公共インフラが無い
冬道になれない観光客ではレンタカーも移動手段としては難

課題解決策！地域の産業・景観・食で地域の価値を伝える旅を提案・実行する団体
オホーツク農山漁村活用体験型ツーリズム推進協議会を2018年設立

2019年 connectorip 開設 ～ ワンストップの体験観光窓口機能～



農山漁村体験 発着地機能

網走国定公園内 網走湖畔
呼人812-2に7/8より開設
Connectri p



交流の拠点

情報発信の拠点

体験実施の拠点

体験型コネクティブ施設
と受入れ体制の構築

郷土料理体験などを実施する
体験型施設

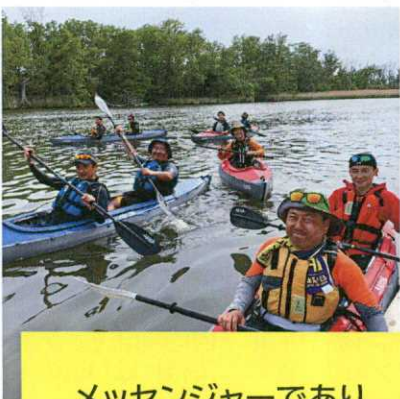
カヤックや冬季スノーモービルなどの
発着基地機能



6次産業化などで手掛けた 商品との連動・販売拠点

試験製造、テスト販売
ワンデーレストランなどへの施設借用

2020年の取り組み 景観・産業・食泊の連動した新しい観光の形



メッセンジャーであり
セキュリティー機能を有する
ガイドの必要性

コース造成
ガイド育成
地域産業との意見醸成



河川敷地、国定公園
漁業者の生業の場

実施環境の整備

河川特区認定

オホーツク海の活用



地域産業に触れる

新しい旅の形

ツアー造成

人の暮らし
地域食材に触れる旅

2021年度の取り組み (1)ガイド育成・環境整備



カヤックJRCA認定校

日本国内で唯一国際的に通用する国の認証機関としてカヌー・カヤックのガイド育成を行う日本レクリエーションカヌー協会・JRCAの認定校に道内で初承認

道外でしか取得できなかったライセンス講習会を網走湖で開催が可能に！



ガイド人材の確保 広域での連携強化

登録ガイド10名が

JRCAジュニアライセンスを取得



広域連携・網走以外の ガイド育成講習会の開催

広域で活躍するガイドの育成

小清水町との連携開催

登録ガイド9名⇒15名へ

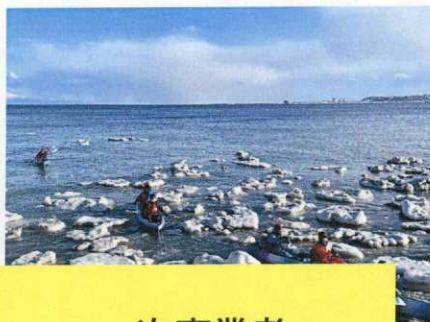
9

2021年度の取り組み (2) 網走川流域の会との連携による水域でのカヤックの実施体制整備



網走湖・網走川での 実施体制強化

地域産業を観光として見せていくためには、産業従事者や関係者との意識醸成が必須。網走漁業協同組合、西網走漁業協同組合、さけ・ます増殖協会による協力体制の整備



一次産業者 と 体験事業者・ガイド 連携体制の構築



産業としての漁業の魅力発信 の実施体制整備

地域産業の紹介として、オホーツク海のウニ漁、網走湖のわかさぎ氷下漁、網走川のサケ漁などを紹介。今後密漁や事故につながらないような実施体制など地域ルール整備の必要性も

10